

想い

# 大切にしているもの、伝えたいこと

## 先生たちの信条と心情

■指導者のこだわりと探求■

町には一芸に秀でた指導者がたくさんいます。かつて自分が学んできたように、彼らもそれを伝え続けています。こうした脈々と息づく伝承こそが、生涯学習や町の文化の礎。その熟練の先に見えたものは何なのか？ 5人の先生方の想いをうかがいました。

個性と感性を加え、  
陰影を浮き彫りに。  
画風の深化を追求する。



Minoru Tashiro

田代 稔先生

[版画]

「彫刻刀が面白いようにサクサクと動く時間が実に楽しい。今は躍動感の表現を追求しています」。版木に向かい、風景や人物などの陰影を味わい深く表現する田代稔先生（金田）。無駄な表現を削り、シンプルで強い作品を生み出し続けています。「版画の作品はみんな違っていい。それぞれが持つ視点や個性、作風の生かし方が大切なんです」と田代先生。中学校校長退職後に始めた版画歴は25年、今や日本版画院同人として版画界の代表的作家陣に名を連ねています。



↑6月に開いた新町通りの個展も大盛況(詳細24頁)、記者から取材を受ける田代稔先生。

詠む事が思考を高める。  
自然にさすかった詩に、  
文字を着せてゆく。



Ichiro Ikeda

池田 一步先生

[俳句]

「自然に親しみながら自分の心の世界を作る… 俳句は思考力や洞察力を向上させてくれます」と語るホトギス同人参与の池田一步（利文）先生（赤池）。長年にわたって町内で俳句を指導してきました。「俳句は気持ちを『空』の状態にして、心で感じ取ることが大切。『さすがる』という感覚です。自分がとらえたものを文字が着こなしているか、という点も大事にしています」と一步先生。出会いと感動を生み、心の支えとなる身近な俳句を広く伝え続けています。



↑高齢者大学をはじめ赤池・方城地区でも精力的に俳句を指導する池田一步先生(写真左)

色彩より自然本意。  
無の心で花と対話し、  
小さな風景を生み出す。



Keitaro Hisatomi

久富 慶太郎先生

[華道]

花を見た瞬間、生花の造形がバツとひらめくという久富慶太郎（専慶）先生（弁城）。華道歴は60年以上、遠方からも華道の指導者がらつま先まで神経を行き届かせないと線がブレてしまいます。極めようとするれば厳しさがつきものですが、生徒には無理せず、健康づくりの一環として楽しんでいきます。「日本の生花は色彩本意ではなく自然本意。花と話をしながら生けるのが、たまたま楽しい」と久富先生。「無」の状態の花の心を感じるこのすばらしさを表現しています。



↑歌謡教室でも長年指導している歌唱審査士の久富さん、十八番は北島三郎の「まつり」。

上達するコツ、  
長く続ける秘けつは、  
何より好きであること。



Kikue Hisatomi

久富 キクエ先生

[民踊]

町内での指導は20年以上になる久富キクエ（中山芳菊）先生（弁城）、中山流準師範で民踊歴は40年以上になります。「踊りは、頭からつま先まで神経を行き届かせないと線がブレてしまいます。極めようとするれば厳しさがつきものですが、生徒には無理せず、健康づくりの一環として楽しんでいきます」と久富先生。ご自身も踊りを始めてからは一度も病気をしたことがありません。「上達と継続には『好きであること』が何より」と、踊りの楽しさを広めている久富先生です。



↑毎週金曜日にはほのぼの館で指導にあたる久富キクエ先生。教室は終始和やかムードです。

感動の共有を大切に。  
喜ぶ人の笑顔は、  
お金には変えられない。



Mutsuko Hisazawa



長谷川 ムツ子先生

[押し花]

「自分も楽しみ、人からも喜ばれる。感動を共有できることが生きがいです」と語る押し花歴11年の長谷川ムツ子先生（市場）。茶道や書道なども続けましたが、68歳で運命的に押し花と出会い、5年前から町内で指導しています。「花と遊び、美しさや可憐さを感じる。その大切さを伝えています。押し花の時間は神経痛も忘れるんですよ」と長谷川先生。材料収集は自宅をはじめ県外へも出向きます。「喜ぶ人の笑顔はお金に変えられない」と、ボランティアで手ほどきをしています。



↑笑顔絶やさず、デイケアセンターはなで月2回40人を指導する長谷川先生(写真右上)



木洩れ日 / Minoru Tashiro